

1 研究主題

『主体的・対話的で深い学びを実現する算数科学習指導方法の研究』

—対話的な学びから深い学びにつなげる授業展開の工夫を通して—

2 主題設定の理由

令和2年度から小学校で本格的に実施された新学習指導要領では、算数科の目標が「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す」と改訂された。これは、児童に、目指す資質・能力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」の視点で、授業改善を進めるものであると示されている。同様に、平成30年度の佐賀県教育施策実施計画にも、「生きる力」につながる「確かな学力」について、「基礎・基本を確実に身に付け、自ら課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育む」ことを目指すと示されている。これらことから、「生きる力」を育むために、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられるように、学習の質を一層高める授業改善が学校に求められている。

本校では、平成20年度の開校以降、「活用する力を高める算数科学習の指導方法の研究」をテーマに、「活用する力」を意識した授業づくりに取り組んできた。近年は、児童一人一人の思考力・表現力の向上を目指して研究を進めてきた。令和2年度佐賀県学習状況調査【12月調査】においては、第4、5、6学年の全ての観点において、正答率が県平均を上回っている。昨年度の研究においては、「この単元で何ができるようになるか(資質・能力)」や「何を学ぶか(内容)」「どのように学ぶか(学習過程)」が明確になる単元づくりや、「学習のふり返りの工夫」に焦点を当て研究を進めた。単元でつける力や学習計画を明示し、1単元や1時間の学習を振り返ることで、自分に付いた力について実感することができた。また、自力解決、ペアもしくはグループ活動、全体交流といった様々な学習形態で対話活動を行うことで、日常的にも自分の考えを説明したり、意見を交わしたりする姿が見られるようになった。しかしながら、対話活動の後の練り合い、深め合いなどが必ずしも学びの質の向上につながっているとはいえない。学びの質を高める対話＝「意見を交換するだけに留まらず、相手の意見を踏まえて自分の意見を再構成したり、修正したりしながら思考や表現を変容させていく活動」についての研修を日常的に行う必要がある。

そこで、今年度はこれまで本校が研究してきた「活用する力」を「深い学び」と捉え、日々の授業実践を通して特に対話的な学びの中から深い学びの姿がどのように見いだされるのか、その実現をめざすために、授業の検証をしていくことが重要と考え、本研究主題を設定した。

3 研究目標

主体的・対話的で深い学びを実現するための算数科学習指導法を明らかにする。

4 研究仮説

児童の思考の流れに寄り添った学習過程を計画し、それに基づく授業実践の中で、板書の構造化や発問の工夫について考える取り組みによって、児童の主体的・対話的で深い学びを実現できるだろう。

5 めざす授業における児童の学びの姿

【主体的に学ぶ姿】

学ぶことに興味や関心をもち、毎時間、見通しをもって粘り強く学習課題に取り組むことを通して、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげていく学びの姿

【対話的に学ぶ姿】

児童同士や教師と児童との対話を通じ、自己の考えを広げ深めながら学ぶ姿

【深い学びの姿】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、以下の4つの学びの姿につながるよう指導していく。

- ・知識を相互に関連付けてより深く理解しながら学ぶ姿
- ・情報を精査して考えを形成しながら学ぶ姿
- ・問題を見出して解決策を考えながら学ぶ姿

6 研究内容

(1) 授業改善の視点

- ア 単元でつける力が明確に分かる単元づくり
- イ 児童の思考の流れを想定した学習過程の計画
- ウ 対話的な学びを引き出す授業展開
 - ・児童の思考を捉えた板書の構造化
 - ・児童の学び合いが生まれる発問の工夫

【対話を生み出す発問の捉え方】

- ・導入時に児童に学習の見通しをもたせたり、児童の興味・関心を引き出したりするもの
- ・教師と児童、または児童同士の意見の共通点やずれを焦点化した問題を生み出すもの
- ・児童の考えを明確にしたり、より妥当な考えをつくりだしていくもの

- エ ついた力が実感できる振り返り

(2) 指導方法の工夫

- ア ICT の効果的な利活用
- イ 発達段階に応じたノートの書かせ方
- ウ 学習課題、めあての提示、板書の工夫、教室環境づくり

(3) 個に応じた指導の充実

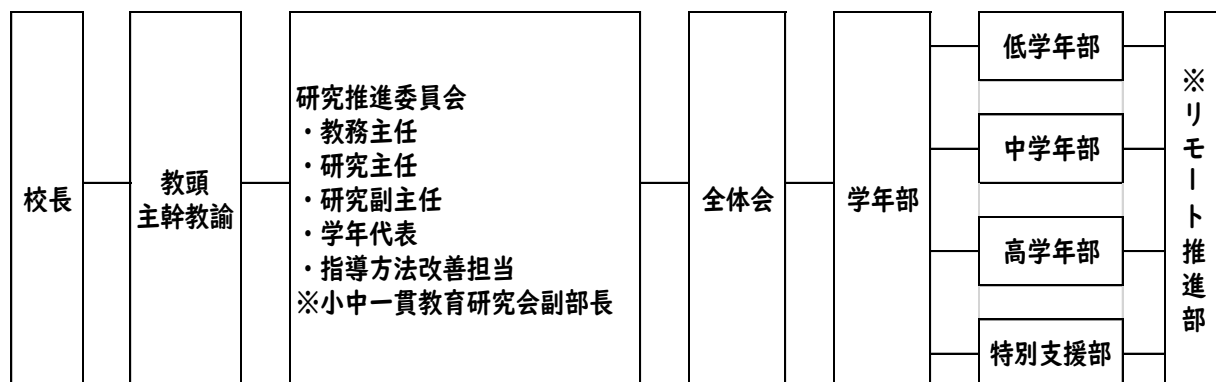
- ア 児童の意識及び実態調査（小中一貫）
- イ 単元テストや全国学力・学習状況調査の評価を生かした補充と発展指導
- ウ 「学習の二極化」への対策（TT・少人数指導の工夫）。
- エ 基礎的・基本的な知識・技能の定着

(4) 基本的な学習態度を育てるための学年に応じた学業指導の充実

- ア 「学業指導6つの柱」「学習の約束7か条（小中一貫）」の共通理解
→学級開きの早い段階で児童に指導する。
- イ 「学習チェックカード」「家庭学習の手引き（4校共通）」の活用
→4月の個人懇談会及び学年通信等で、家庭との共通理解を図る。
- ウ UDへの対応
→基本的に前面掲示は行わない。「学業の約束」七か条のみ黒板右側の掲示スペースに
掲示。その他の学習に関わる掲示物については専門部で検討。
→**め・問・見・考・ま・練**で授業の流れを掲示。

7 研究組織及び研究計画

① 研究組織



- ・ 研究推進委員会は、校長・教頭・主幹教諭・教務主任・指導教諭(研究主任)・研究副主任・各学年の研究推進委員・指導方法改善担当・小中一貫教育研究会副部長・学力向上コーディネーターがあたり、企画・立案・連絡調整を行い、研究推進の中心となる。
- ・ 研究推進委員会は、学業指導について協議し、全体会で提案する。
- ・ 全体会は、全職員の共通理解・全体研究協議・問題解決のために開く。
- ・ 第3、4水曜日を研修日とし、必要に応じて全体会を開く。

② 研究計画

1 学期	○本年度の研究の方針、研究主題決定、研究組織づくり ○各学年部の目標、視点、研究内容、研究方法の検討 ○各学年グループ研究会 ○授業実践 ○研究会への参加 ○算数アンケートの内容見直し、実施、集計、分析（第1回目）
2 学期	○全体研究会 ○各学年グループ研究会 ○授業実践 ○田代中校区小中一貫教育研究発表会 ○学習状況調査の実施と分析 ○算数アンケートの内容見直し、実施、集計、分析算（第2回目）
3 学期	・各学年グループ研究会 ・授業実践・研究のまとめ（研究冊子作成）、次年度研究の方向付け

8 期待する研究の成果

- ・児童の思考の流れに寄り添った学習過程の中で、板書の構造化や新規の発問、問い返し発問等の工夫によって、児童の主体的で対話的で深い学びにつなげることができる。
- ・「学びの質を高める対話」を年間通して行うことで、意見を交換するだけに留まらず、相手の意見を踏まえて自分の考えを再構築したり、修正したりと自己の考えを広げ深める児童の姿が期待できる。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、全職員が授業改善に努めようとする。

9 研究の具体的な構想

(1) 目指す児童像

学んだことをつかい、考えを表現できる子ども

(対話活動を通して、考えを広げたり深めたりしようとする子ども)

(2) 研究の具体化(昨年度の目標をもとに、今年度の目標を立てる)

		低学年	中学年	高学年	特別支援
目標		◎基本的な操作をもとに、自分で考え、生き生きと学ぶ子ども	◎学んだことを自分なりに活用し、考えを表現する子ども	◎学んできたことを活用し、互いの考えを伝え合い高め合う子ども	◎基本的な操作をもとに考え、生き生きと学ぶ子ども
研究の視点	教材開発 課題設定	○楽しく学習できる教材・教具、及び課題提示の工夫	○学習意欲を喚起させるような問題設定、及び提示の工夫	○考える力をつけるための発展的な問題や生活に生かした問題提示の工夫	○日常の事象からの課題作り ○楽しく学習できる、教材・教具・ワークシートの工夫
	学習過程 (学習形態) ・表現的活動 ・グループ学習 ・練り合い など	○絵・図・式・簡単な言葉等を使って自分の考えを表現できる、ワークシートやノート指導の工夫 ○自分の考えを伝え合う場の設定。 (ペア学習の導入)	○自分の考えを 図・式・言葉を使って分かりやすく表現できるワークシートやノート指導の工夫 ○自信を持って自分の考えを表現できる場の設定。 (ペア学習、グループ学習の導入) ○自分の考えの根拠を表現する指導の工夫	○図や式、言葉と関連しながら分かりやすく自分の考えを相手に伝えるように表現させる工夫 ○自分以外の多様な考えに触れ、考えを高め合う場の設定 (ペア学習、グループ学習の導入) ○様々な場面で、よりよい考えを活用させる工夫	○自分でできたという喜びをもたせる場の工夫
	個に応じた指導	○自力解決が困難な児童に対する、具体物を使った効果的な指導	○自力解決が困難な児童に対する、ヒントカードや操作活動を生かした個別指導 ○T Tを活用した効果的な個別指導	○自力解決が困難な児童に対する、ヒントカードやヒントコーナーの活用 ○習熟度に応じたT T指導や少人数指導の工夫	○具体物を使った効果的な指導
	活用する力	6つの「活用する力」をふまえた、具体的な活用する力の明確化と、それに関わる具体的な手立ての設定			
ICTの活用	学習過程において、ICTを生かした効果的な活用方法の検討と実践				

10 年間研究実施計画

月	日	研修計画	研修内容
4	6日(火) 19日(月) 21日(水)	○第1回 研究推進委員会 ○第2回 研究推進委員会 ◎第1回 全体会 ・学年別研修会 (低・中・高・特)	・昨年度からの引き継ぎ事項の確認 ・研究の概要、理論研究の方向性の決定 ・研究授業の在り方についての検討 ・研究の概要、理論研究の方向性、今年度の研究授業 業の在り方についての共通理解 ・年間の授業研究会における授業者の決定
5	19日(水) 上旬～下旬	◎(職員会議終了後) 第2回全体会 ・学年別研修会 (低・中・高・特)	・授業研究会における単元や領域の決定 ・学習指導案の作成、教材・教具の作成・開発
6	30日(水)	●第1回 全体授業研究会	・第6学年4組 算数研究授業 授業者：内村可菜美 単元名：「分数÷分数」
7	上旬～下旬	・学年別研修会(低・中・高・特)	・学習指導案の作成、教材・教具の作成・開発
8	24日(火) 上旬～下旬	○第3回 研究推進委員会 ・学年別研修会(低・中・高・特)	・校内研究のまとめに向けて、研究集録原稿の検討 ・学習指導案の作成、教材・教具の作成・開発
9	15日(水) 上旬～下旬	・学年別研修会 (低・中・高・特) ◆第1回 グループ授業研究会(中学年)	・学習指導案の作成、教材・教具の作成・開発 ・第3学年3組 算数研究授業 授業者：未安 京子
10	13日(水)	◆第2回 グループ授業研究会(低学年) ◆第3回 グループ授業研究会(特別支援) ・学年別研修会(低・中・高・特)	・第2学年2組 教科「日本語」研究授業 授業者：永松 笑美 ・あさがお7組 自立活動研究授業 授業者：宮崎 泉実 ・学習指導案の作成、教材・教具の作成・開発

11	10日 (水)	◆第4回 グループ授業 研究会(特別支援) ◇小中一貫教育研究発表会 ◎第3回 全体会	<ul style="list-style-type: none"> ・あさがお6組 算数研究授業 授業者:岩橋 大輝 ・第1学年1組 教科「日本語」研究授業 授業者:遠藤 幸子 ・第4学年1組 算数研究授業 授業者:松岡 瞳 ・第5学年〇組 外国語研究授業 授業者:東島 美緒 <p>・研究のまとめ、研究紀要についての検討</p>
12		・学年別研修会(低・中・高・特)	・研究のまとめ
1	18日 (月) 27日 (水)	○第5回 研究推進委員会 ◎第4回 全体会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究の成果と課題 ・今年度の校内研究の振り返り
2	15日 (月) 24日 (水)	○第6回 研究推進委員会 ◎第5回 全体会	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の反省と来年度の方向性について ・今年度の反省と来年度の方向性について